

令和2年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	鹿児島県		市町村類型	II-1		指定団体等の指定状況		区分		令和2年度(千円)	令和元年度(千円)	区分		令和2年度(千円・%)	令和元年度(千円・%)						
						財政健全化等	×	歳入総額	9,684,916	7,225,198	実質収支比率	8.7	10.1								
市町村名	湧水町		地方交付税種地	2-1	財源超過	×	歳出総額	9,308,572	6,790,291	経常収支比率	87.8	92.9	(※1) (90.6) (95.7)	標準財政規模 4,153,086 財政力指数 0.33 公債費負担比率 15.1 16.2	3,988,367 0.33 0.32						
					首都	×	歳入歳出差引	376,344	434,907	単年度収支	99,255	99,255				公債費負担比率	15.1	16.2			
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	14,758	32,945	積立金	159,996	129,679				健全化判断比率			実質赤字比率	-	-
					中部	×	実質収支	361,586	401,962	積立金取崩し額	50,000	165,000				連結実質赤字比率	-	-	実質公債費比率	8.3	8.2
人口	令和2年国調(人)	9,119	産業構造(※5)		過疎	○	単年度収支	-40,376	-40,376	積立金	0	0	将来負担比率								
	平成27年国調(人)	10,327			山振	×	線価還金	0	0	実質赤字比率	-	-	実質公債費比率	8.3	8.2						
	増減率(%)	-11.7			低開発	×	積立金取崩し額	50,000	165,000	実質公債費比率	8.3	8.2	将来負担比率	10.8	25.9						
住民基本台帳人口(※7)	令03.01.01(人)	9,005	第1次	平成27年国調	779	783	指数表選定	○	69,620	63,934	基準財政収入額	1,210,055	1,178,189	資金不足比率(※4)							
	うち日本人(人)	8,916		17.7	16.7	基準財政需要額	3,703,881	3,518,147	標準税収入額等	1,532,962	1,501,478	経常経費充当一般財源等	3,614,906			3,693,777					
	令02.01.01(人)	9,192	第2次	平成22年国調	1,027	1,235	歳入一般財源等	5,336,666	4,951,252	地方債現在高	8,210,920	8,119,973	うち公的資金			6,968,522	6,967,895				
	うち日本人(人)	9,102		23.3	26.4	債務負担行為額(支出予定額)	138,020	145,333	収益事業収入	-	-	財政調整基金	1,153,989			1,043,993	減債基金	474,035	369,928		
	増減率(%)	-2.0	第3次	2,605	2,659	土地開発基金現在高	-	398,672	積立金現在高	1,434,775	1,051,760	その他特定目的基金	1,434,775			1,051,760					
うち日本人(%)	-2.0	59.1		56.9	ラスバイレス指数	96.2															
面積(km ²)	144.29																				
人口密度(人/km ²)	63																				
世帯数(世帯)	4,102																				
職員の状況																					
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)													
	市区町村長	1	7,640	一般職員		126	397,278	3,153													
	副市区町村長	1	6,080	うち消防職員		-	-	-													
	教育長	1	5,740	うち技能労務職員		-	-	-													
	議会議長	1	3,050	教育公務員		3	11,204	3,735													
	議会副議長	1	2,520	臨時職員		-	-	-													
	議会議員	10	2,290	合計		129	408,482	3,167													
					ラスバイレス指数			96.2													
一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		(※3)									
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名										
(1)	一般会計	(2)	湧水町国民健康保険特別会計	(5)	湧水町水道事業	(6)	鹿児島県市町村総合事務組合	(14)	湧水町土地開発公社												
		(3)	湧水町介護保険特別会計			(7)	伊佐湧水消防組合														
		(4)	湧水町後期高齢者医療特別会計			(8)	伊佐北始良環境管理組合														
						(9)	伊佐北始良火葬場管理組合														
						(10)	始良・伊佐地区介護保険組合														
						(11)	鹿児島県後期高齢者医療広域連合(一般会計)														
						(12)	鹿児島県後期高齢者医療広域連合(特別会計)														
						(13)	大口地方卸売市場管理組合														

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、令和元年度は「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を、令和2年度は「減収補償(特例分)」 「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位 千円・%)					地方税の状況(単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	1,089,632	11.3	1,089,632	27.3	普通税	1,089,498	100.0	-	
地方譲与税	89,869	0.9	89,869	2.3	法定普通税	1,089,498	100.0	-	
利子割交付金	490	0.0	490	0.0	市町村民税	323,254	29.7	-	
配当割交付金	1,435	0.0	1,435	0.0	個人均等割	13,452	1.2	-	
株式等譲渡所得割交付金	1,449	0.0	1,449	0.0	所得割	257,086	23.6	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	27,911	2.6	-	
地方消費税交付金	213,559	2.2	213,559	5.4	法人税割	24,805	2.3	-	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	固定資産税	666,437	61.2	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	652,541	59.9	-	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	44,427	4.1	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	55,380	5.1	-	
自動車税環境性能割交付金	3,114	0.0	3,114	0.1	鉱産税	-	-	-	
法人事業税交付金	5,439	0.1	5,439	0.1	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金	5,944	0.1	5,944	0.1	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	3,801	0.0	3,801	0.1	目的税	134	0.0	-	
自動車税減収補填特例交付金	1,650	0.0	1,650	0.0	法定目的税	134	0.0	-	
軽自動車税減収補填特例交付金	493	0.0	493	0.0	入湯税	134	0.0	-	
地方交付税	2,768,868	28.6	2,491,934	62.5	事業所税	-	-	-	
普通交付税	2,491,934	25.7	2,491,934	62.5	都市計画税	-	-	-	
特別交付税	276,934	2.9	-	-	水利地益税等	-	-	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	法定外目的税	-	-	-	
(一般財源計)	4,179,799	43.2	3,902,865	97.9	旧法による税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	1,509	0.0	1,509	0.0	合計	1,089,632	100.0	-	
分担金・負担金	19,639	0.2	-	-					
使用料	120,986	1.2	3,451	0.1					
手数料	5,741	0.1	-	-					
国庫支出金	2,042,057	21.1	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	2,507	0.0	2,507	0.1					
都道府県支出金	559,312	5.8	-	-					
財産収入	104,483	1.1	77,411	1.9					
寄附金	429,373	4.4	-	-					
繰入金	764,248	7.9	-	-					
繰越金	434,907	4.5	-	-					
諸収入	147,667	1.5	130	0.0					
地方債	872,688	9.0	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち猶予特例債	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	128,190	1.3	-	-					
歳入合計	9,684,916	100.0	3,987,873	100.0					

区分		令和2年度	令和元年度
徴収率	現・計	98.0	94.9
(%)	年	99.1	96.8
		97.2	93.5
		99.0	96.6
		99.0	95.3

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	723,536	実質収支	31,891
上水道	60,998	再差引収支	9,947
市場	3	加入世帯数(世帯)	1,543
工業用水道	-	被保険者数(人)	2,365
交通	-	被保険者	86
国民健康保険	142,907	1人当り	-
その他	519,628	保険税(料)収入額	462
		国庫支出金	-
		保険給付費	-

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況(単位 千円・%)					
目的別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	77,751	0.8	-	77,751	
総務費	2,579,691	27.7	42,046	972,094	
民生費	1,996,929	21.5	17,192	969,392	
衛生費	431,365	4.6	21,926	369,383	
労働費	-	-	-	-	
農林水産業費	538,808	5.8	205,959	238,184	
商工費	537,429	5.8	88,680	283,989	
土木費	756,464	8.1	587,277	291,846	
消防費	774,499	8.3	409,537	349,924	
教育費	730,315	7.8	208,491	573,998	
災害復旧費	60,991	0.7	-	25,631	
公債費	824,330	8.9	-	808,130	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	9,308,572	100.0	1,581,108	4,960,322	

性質別歳出の状況(単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	3,024,230	32.5	2,213,552	2,178,713	52.9
人件費	1,282,739	13.8	1,207,323	1,182,873	28.7
うち職員給	668,276	7.2	643,321	-	-
扶助費	917,161	9.9	198,099	187,770	4.6
公債費	824,330	8.9	808,130	808,130	19.6
元利償還金	824,330	8.9	808,130	808,130	19.6
内訳					
うち元金	781,741	8.4	766,639	766,639	18.6
うち利子	42,589	0.5	41,491	41,491	1.0
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	4,642,243	49.9	2,213,877	1,436,133	34.9
物件費	928,255	10.0	518,595	385,165	9.4
維持補修費	65,062	0.7	35,354	17,458	0.4
補助費等	2,022,086	21.7	768,067	535,774	13.0
うち一部事務組合負担金	394,736	4.2	394,716	394,006	9.6
繰出金	662,538	7.1	521,659	497,736	12.1
積立金	962,622	10.3	370,202	-	-
投資・出資金・貸付金	1,680	0.0	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	1,642,099	17.6	532,893	-	-
うち人件費	89,420	1.0	82,780	-	-
普通建設事業費	1,581,108	17.0	507,262	-	-
うち補助	436,633	4.7	21,483	-	-
うち単独	1,070,551	11.5	469,738	-	-
災害復旧事業費	60,991	0.7	25,631	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	9,308,572	100.0	4,960,322	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

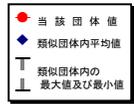
令和2年度 鹿兒島県瀬戸町

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	9,631	9,322	309	295	764	8,211	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

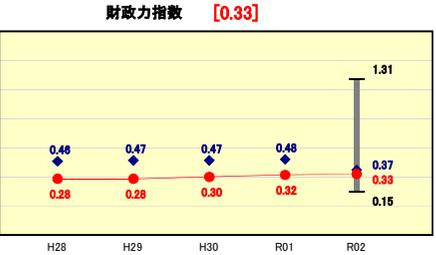
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	9,005	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,916	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	144.29	km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	9,684,916	千円	将来負担比率	10.8	%
歳出総額	9,308,572	千円	市町村類型	H28 III-1 H29 III-1 H30 III-1	
実質収支	361,586	千円	(年度毎)	R01 III-1 R02 II-1	
標準財政規模	4,163,086	千円			
地方債現在高	8,210,920	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※(人件費・物件費等の状況)の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

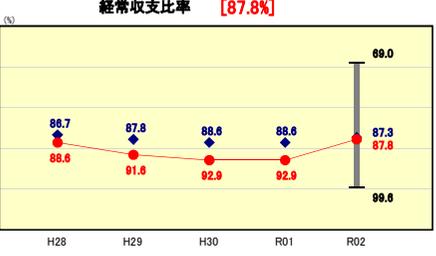
財政力



財政力指数の分析欄

財政力指数は年々上昇している。産業構造的に第2次、第3次産業の占める割合が高いものの、所得水準が低いことや大規模企業等が少ないことなどにより、財政力指数は類似団体内平均値を下回っている。令和2年度は、市町村税は減少したものの地方交付税の増加により財政力指数は上昇した。財政力指数は近年上昇傾向にあるものの、国全体の景気回復は不透明な状況で、加えて人口も減少しており、今後の財政力の向上は厳しい状況である。このことから、引き続き行政の効率化等に努め、また、企業誘致にも積極的に取り組み、税収と雇用の場の確保を図る。

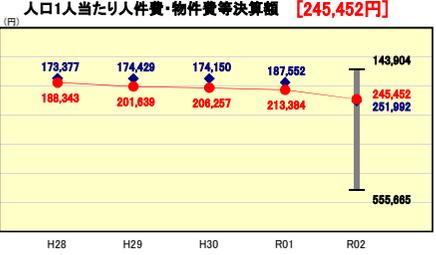
財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄

令和2年度の経常収支比率は、市町村税は減少したものの経常的な一般財源である普通交付税の増加と併せて臨時財政対策債発行額も増加したことにより、5.1ポイントの減少となった。交付税に依存している本町の財政構造にあつては、今後の普通交付税や臨時財政対策債の動向によっては、指数が大きくなる可能性がある。今後、自主財源の確保と、各町有財産施設の管理経費の節約・見直し等により、経常的経費の抑制に努める。

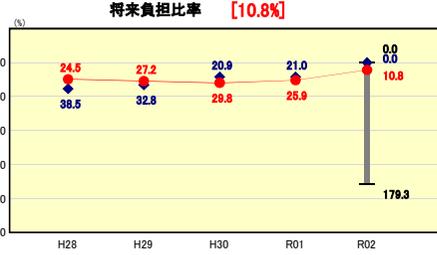
人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人口1人当たりの人件費・物件費等の決算額は、類似団体平均よりも小さい額であったが、全国平均、県平均より大きい額となっている。決算額では、人件費は会計年度任用職員の報酬が物件費から人件費へ移行したことにより増加し、また、物件費は新型コロナウイルス感染症対策にかかる経費により増加したため、前年度よりも大幅な増加となった。今後、特に消耗品費の節約に努めるとともに、計画的な備品購入と各施設の電力入札等により物件費の歳出を抑える。

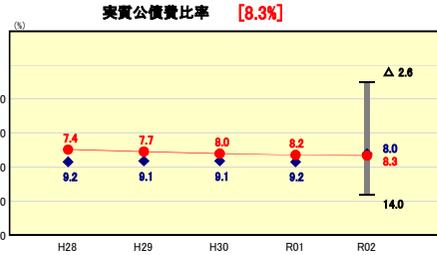
将来負担の状況



将来負担比率の分析欄

令和2年度の将来負担比率については、退職手当負担見込額の減少と充当可能基金の増加により大きく低下した。今後も、健全な財政運営を行うため、普通建設事業等の計画的な実施、平準化及び見直しにより、基金残高の減少や地方債の借入れを抑制する必要がある。また、一部事務組合においても負担金の減少を図るため、行財政改革に積極的に取り組むよう協議する。

公債費負担の状況



実質公債費比率の分析欄

令和2年度の実質公債費比率については、一般会計における公債費は減少したものの、算入公債費等が減少したため数値が上昇した。本町の実質公債費率は近年上昇傾向にある。これは普通交付税の合併算定終了による交付額の減少により、標準財政規模が減少したことが主な要因である。引き続き、普通交付税の算入を受ける有利な地方債を活用するなど、健全な財政運営に努めるとともに、水道事業企業会計及び一部事務組合が借り入れる地方債についても事業計画等を事前に協議し、実質公債費比率が上昇しないように連携を図る。

定員管理の状況



人口1,000人当たり職員数の分析欄

令和2年度は退職者数を採用者数が上回ったことと人口減少により、人口1,000人当たりの職員数は、類似団体内平均値を上回っている。引き続き職員数の推移を考慮しながら、適正な定員管理を図る。

給与水準 (国との比較)



ラスパイレース指数の分析欄

平成23年度から平成24年度にかけて実施された給与改定・臨時特例法による国家公務員の給与削減措置が終了したことに伴い、平成25年度は指数が大きく低下した。平成26年度以降は経験年数階層内における職員分布の変動により増減しているが、ほぼ同水準で推移している。令和2年度は、新規職員の増加に伴い、指数は前年度よりも減少した。職員数の適正化とともに退職者の再任用を積極的に推進し、給与水準の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

鹿児島県湧水町

経常収支比率の分析

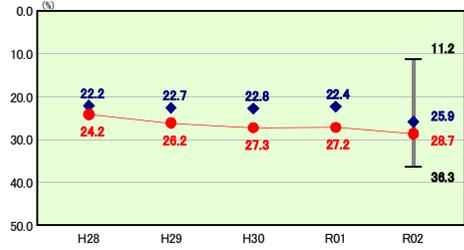
人口	9,005	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,916	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	144.29	km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	9,684,916	千円	将来負担比率	10.8	%
歳出総額	9,308,572	千円	市町村類型	H28 III-1 H29 III-1 H30 III-1	
実質収支	361,586	千円	(年度毎)	R01 III-1 R02 II-1	
標準財政規模	4,153,086	千円			
地方債現在高	8,210,920	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

人件費

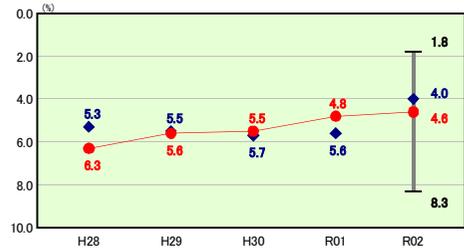
類似団体内順位 65/80 全国平均 26.8 鹿児島県平均 25.6



人件費の分析欄
 人件費に係る経常収支比率は、全国平均、類似団体内平均より高い数値になっている。令和2年度は会計年度任用職員制度の運用開始により、物件費から人件費へ移行したことにより前年度よりも1.5ポイント増加した。
 職員数の適正化や退職者の再任用を積極的に推進するとともに、会計年度任用職員の適正配置など、行政事務を遂行できる職員数を確保しながら、経常経費である人件費の抑制を図る。

扶助費

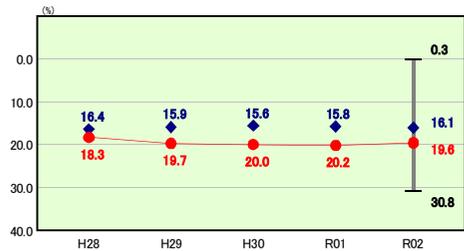
類似団体内順位 58/80 全国平均 12.4 鹿児島県平均 13.2



扶助費の分析欄
 扶助費に係る経常収支比率は、全国平均、鹿児島県平均より低くなっており、前年度より0.2ポイント減少している。
 令和2年度は、子どものための教育・保育給付費が増加したが、乳幼児医療費助成金等が減少したため前年度よりも減少した。
 扶助費の支出額は増加傾向にあるが、単独扶助費等の見直し・削減により抑制を図る。

公債費

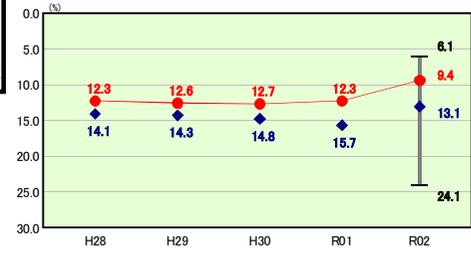
類似団体内順位 63/80 全国平均 16.3 鹿児島県平均 19.2



公債費の分析欄
 公債費に係る経常収支比率は、類似団体内平均より高い比率となっている。また、令和2年度は、償還済済に加え、地方債の借入額抑制により公債費に要する額が減少したことにより、前年度よりも0.6ポイント減少した。
 今後も適債事業の計画的な実施と調整を行い、地方債の年度内借入額を元金償還額以内に抑える取組みを継続し、公債費の削減を図る。

物件費

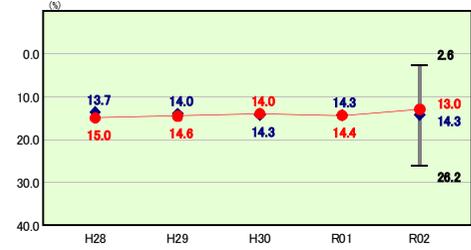
類似団体内順位 7/80 全国平均 14.3 鹿児島県平均 12.7



物件費の分析欄
 物件費に係る経常収支比率は、令和2年度から会計年度任用職員の制度運用開始により、これまでの物件費から人件費へ移行したこと等から2.9ポイントの減少となった。
 近年は、経常的一般財源の充当額の減少により、比率が減少している状況である。

補助費等

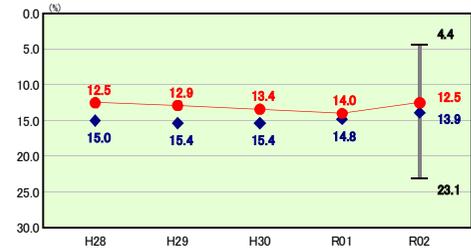
類似団体内順位 28/80 全国平均 10.7 鹿児島県平均 7.9



補助費等の分析欄
 補助費等に係る経常収支比率は、前年度よりも1.4ポイント減少し、類似団体内平均よりも低い数値となったが、依然として全国平均や鹿児島県平均よりも高い数値となっている。
 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により各種イベントや行事が中止となったこと等から前年度よりも減少した。
 補助費等については、今後、各種補助金の見直し(基準、額、年限)を行い、削減に努める。

その他

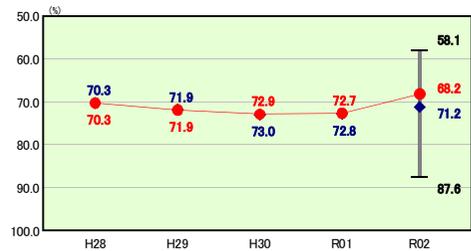
類似団体内順位 32/80 全国平均 12.6 鹿児島県平均 13.3



その他の分析欄
 その他に係る経常収支比率は、類似団体内平均や全国平均、鹿児島県平均よりも低い数値となっている。
 主な要因は、大きな割合を占める繰出金が前年度よりも減少したことによるものである。
 国民健康保険事業特別会計や介護保険事業特別会計など、保険料の見直し等を図ることにより、繰出金の削減に努める。

公債費以外

類似団体内順位 23/80 全国平均 76.8 鹿児島県平均 72.7



公債費以外の分析欄
 公債費以外に係る経常収支比率については、類似団体や全国平均、鹿児島県平均よりも低い数値となっている。
 これまで増加傾向にあったが、令和2年度は前年度よりも4.5ポイント減少した。これは、物件費や補助費等の比率が減少したためである。
 令和2年度は普通交付税が増加したが、今後の状況は不透明であり経常収支比率全体の上昇も危惧されることから、人件費・物件費の抑制に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

鹿児島県湧水町

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	1,282,739	142,447	131,552	8.3
一部事務組合負担金(補助費等)	245,312	27,242	15,222	79.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	927	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	71,861	7,980	5,186	53.9
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	89,420	9,930	3,097	220.6
▲退職金	▲155,184	▲17,233	▲10,369	66.2
合計	1,534,148	170,366	145,615	17.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	14.33	13.36	0.97
ラスパイレース指数	96.2	95.8	0.4

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

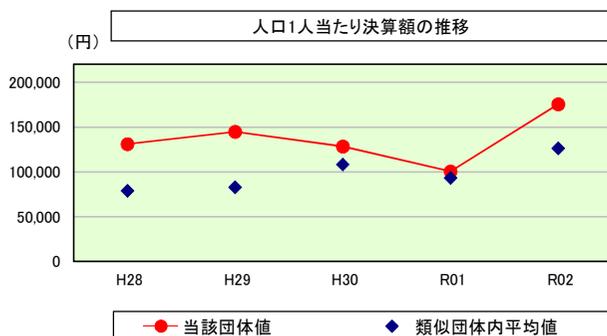


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	824,331	91,541	74,764	22.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	46,712	5,187	25,584	▲ 79.7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	6,328	703	3,670	▲ 80.8
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	420	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	9	-
▲特定財源の額	▲16,200	▲1,799	▲2,239	▲19.7
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲548,772	▲60,941	▲71,783	▲15.1
合計	312,399	34,692	30,425	14.0

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H28	1,288,512	131,026	6.2	78,903	▲ 25.6	31.8
うち単独分	855,873	87,032	4.9	49,201	11.1	▲ 6.2
H29	1,396,802	144,791	10.5	82,993	5.2	5.3
うち単独分	762,166	79,005	▲ 9.2	46,787	▲ 4.9	▲ 4.3
H30	1,208,069	128,532	▲ 11.2	108,252	30.4	▲ 41.6
うち単独分	895,396	95,265	20.6	50,321	7.6	13.0
R01	924,745	100,603	▲ 21.7	93,492	▲ 13.6	▲ 8.1
うち単独分	522,719	56,867	▲ 40.3	53,316	6.0	▲ 46.3
R02	1,581,108	175,581	74.5	126,525	35.3	39.2
うち単独分	1,070,551	118,884	109.1	67,052	25.8	83.3
過去5年間平均	1,279,847	136,107	11.7	98,033	6.3	5.4
うち単独分	821,341	87,411	17.0	53,335	9.1	7.9

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

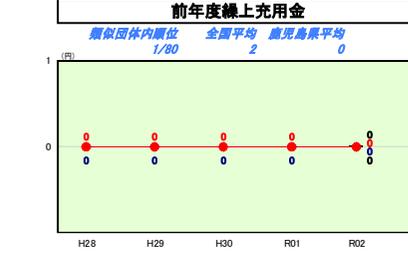
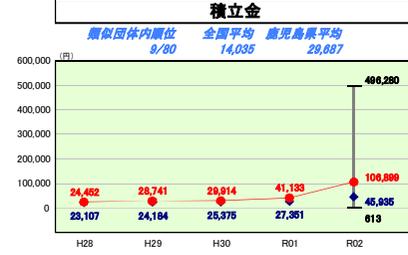
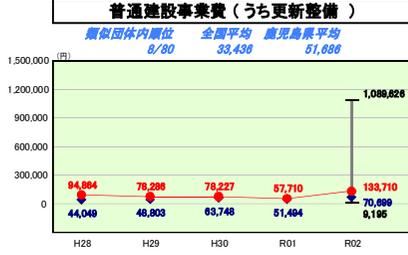
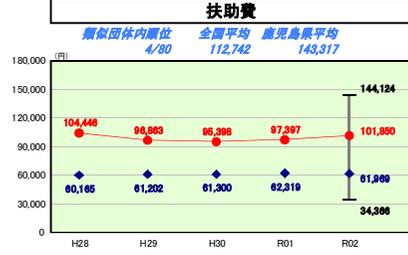
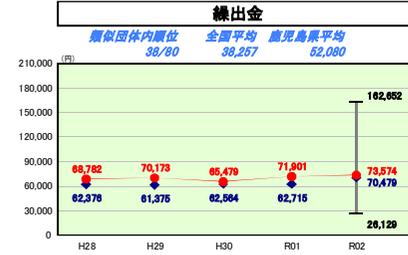
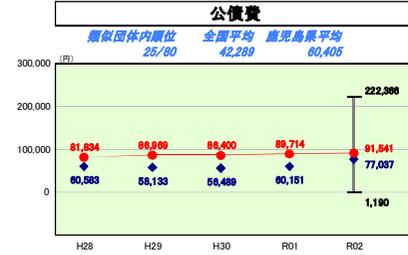
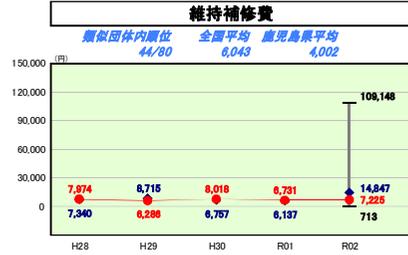
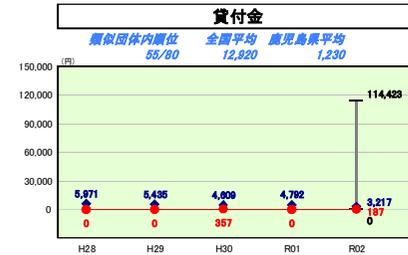
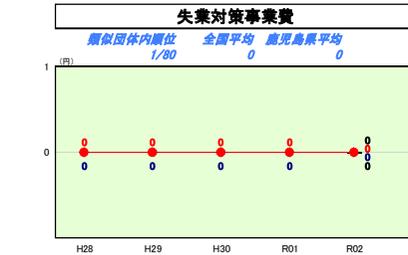
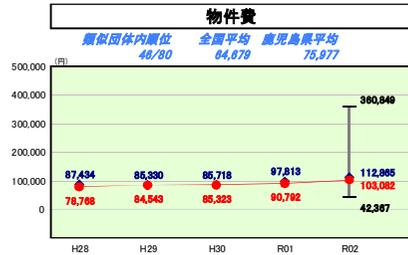
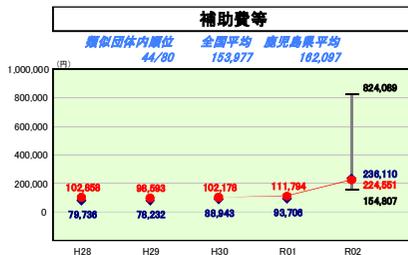
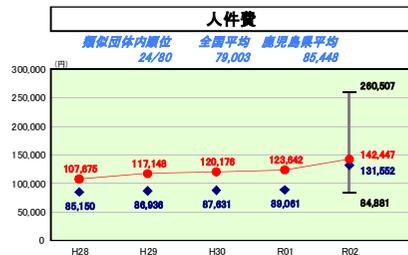
令和2年度

鹿児島県湧水町

人口	9,005人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,919人(03.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	144.29km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	9,684,016千円	実質負担比率	10.8	%
歳出総額	9,308,572千円	市町村類型	H28 III-1 H29 III-1 H30 III-1	
実質収支	361,566千円	(年度毎)	R01 III-1 R02 II-1	
標準財政規模	4,163,086千円			
地方債現在高	8,210,920千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

性質別歳出の住民一人当たりのコストで高いものは、①補助費等、②普通建設事業費、③人件費の順となっている。
 ①補助費等については、住民一人当たり224,551円となっており、類似団体よりも低い状況である。これは、新型コロナウイルス感染症対策に伴う国の特別定額給付金事業により補助費等が増加しているためである。
 ②普通建設事業費については、住民一人当たり175,581円となっており、類似団体と比較しても高い状況である。これは、下場土地区画整理事業や防災行政無線整備事業等を実施しているためである。
 ③人件費については、住民一人当たり142,447円となっており、類似団体と比較しても高い状況である。これは、会計年度任用職員の制度運用開始に伴う人件費への移行により増加しているためである。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

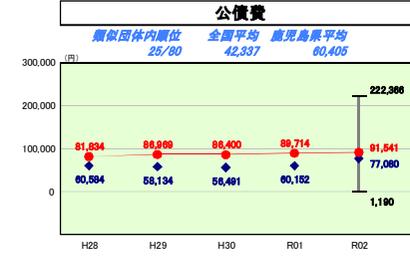
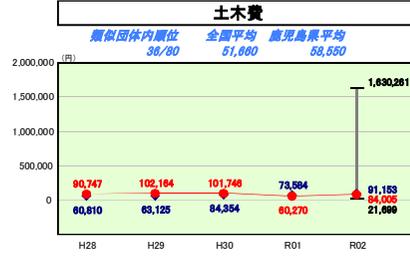
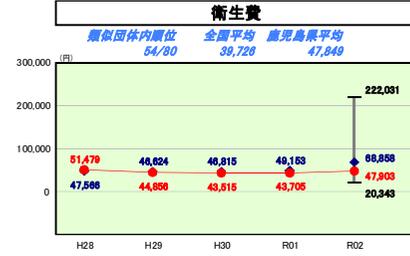
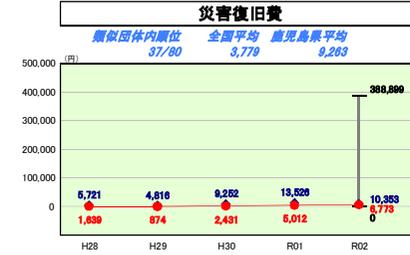
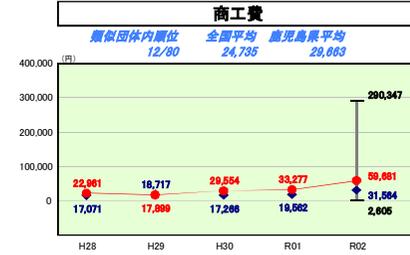
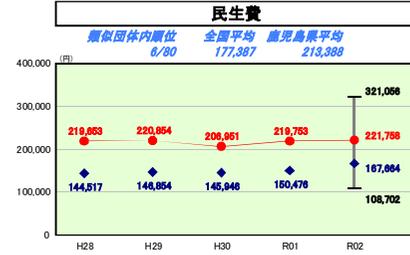
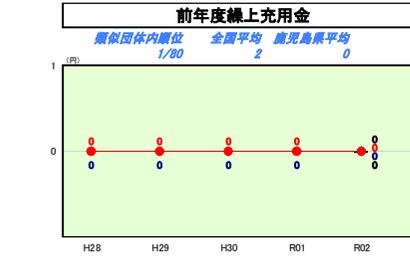
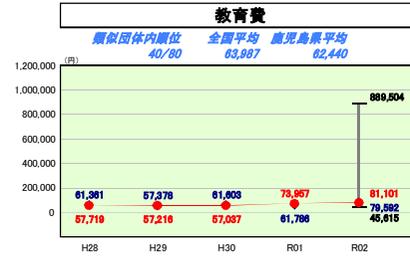
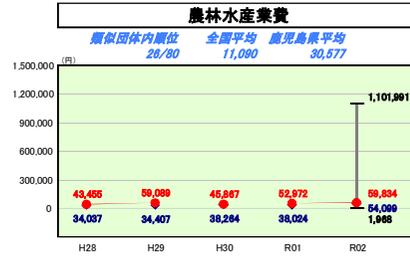
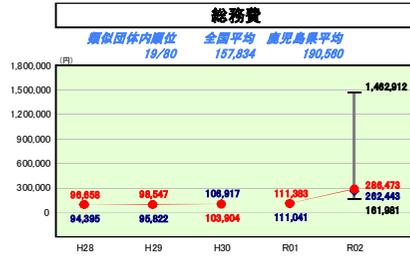
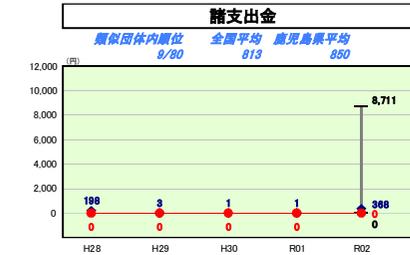
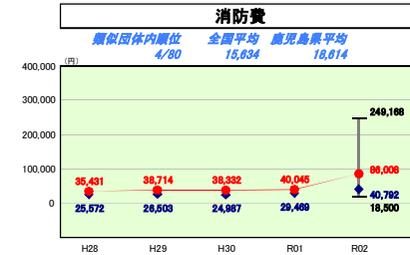
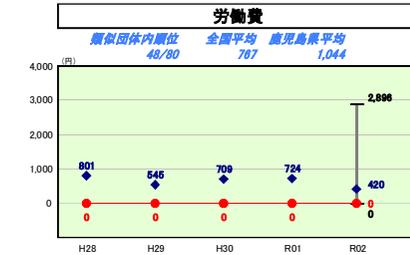
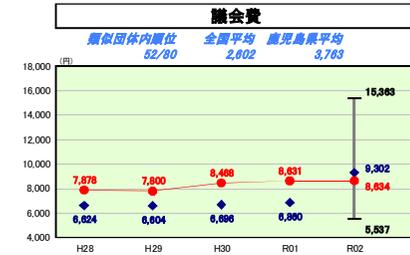
令和2年度

鹿児島県湧水町

人口	9,005人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,919人(03.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	144.29km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	9,684,016千円	実質負担比率	10.8	%
歳出総額	9,308,572千円	市町村類型	H28 III-1 H29 III-1 H30 III-1	
実質収支	361,566千円	(年度毎)	R01 III-1 R02 II-1	
標準財政規模	4,153,086千円			
地方債現在高	8,210,920千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

目的別歳出の住民一人当たりのコストで高いものは、①総務費、②民生費、③公債費の順となっている。

①総務費については、住民一人当たり286,473円となっており、類似団体と比較して高い状況である。主な要因は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う国の特別定額給付金事業により前年度よりも増加している。

②民生費については、住民一人当たり221,758円となっており、類似団体と比較しても高い状況である。主な要因は扶助費で、民生費の約半数を占めている。近年、特に児童福祉、障害者福祉関係の割合が高い。

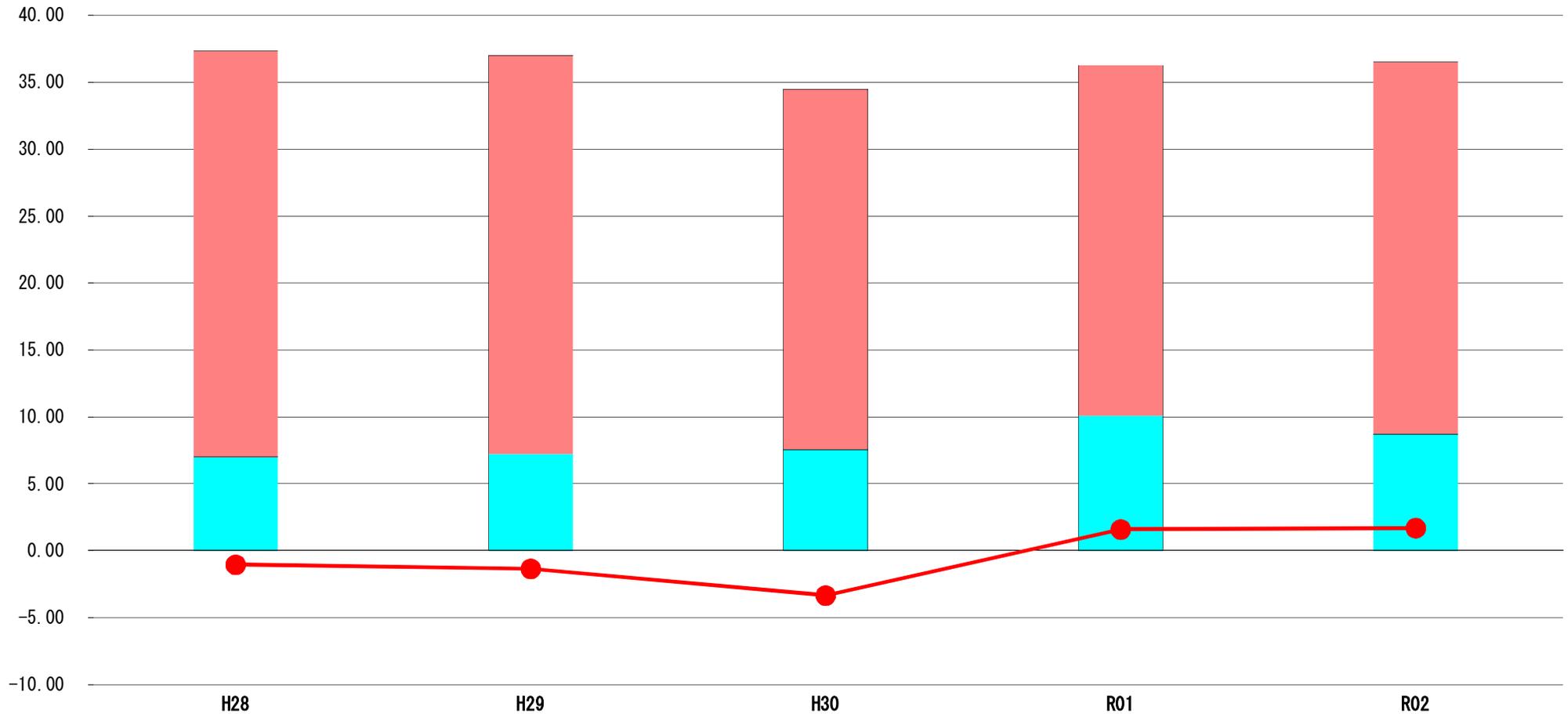
③公債費については、住民一人当たり91,541円となっており、類似団体と比較しても高い状況である。主な要因は、地方債の償還元金が前年度よりも増加したためである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和2年度

鹿児島県湧水町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H28	H29	H30	R01	R02
 財政調整基金残高		30.32	29.79	26.92	26.18	27.79
 実質収支額		7.00	7.21	7.55	10.08	8.71
 実質単年度収支		▲ 1.03	▲ 1.35	▲ 3.34	▲ 1.60	▲ 1.68

分析欄

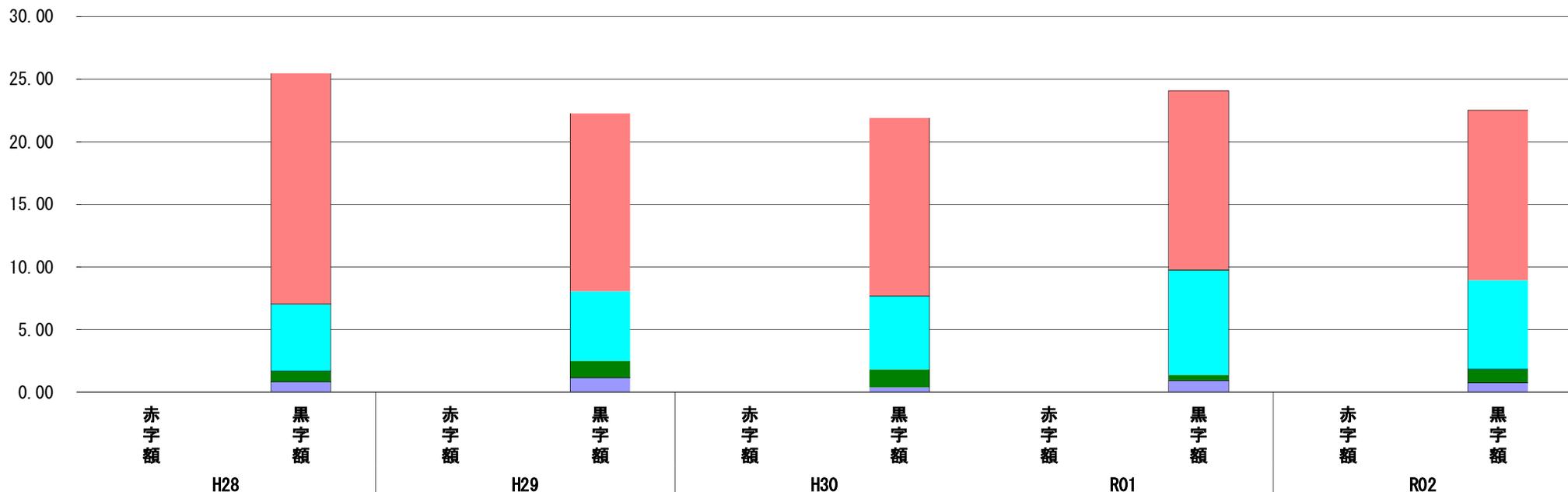
実質収支額、実質単年度収支は黒字となり、令和2年度の実質収支比率は8.71%で適正な規模以上を確保できた。
 令和2年度の財政調整基金の残高については、取り崩しを最小限に抑制できたことから、増加となった。
 今後、普通交付税の合併算定替措置が終了することや基金残高が少ない状況であることから、歳出全般の見直しを行い、基金に依存しない財政運営を図る必要がある。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和2年度

鹿児島県湧水町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度					
	H28	H29	H30	R01	R02	
湧水町水道事業	18.42	14.22	14.24	14.33	13.60	
一般会計	5.39	5.55	5.86	8.39	7.09	
湧水町介護保険特別会計	0.81	1.36	1.43	0.45	1.08	
湧水町国民健康保険特別会計	0.85	1.15	0.37	0.92	0.76	
湧水町後期高齢者医療特別会計	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	
その他会計（赤字）	-	-	-	-	-	
その他会計（黒字）	-	-	-	-	-	

分析欄

令和2年度までの全会計における実質収支は、比率の増減はあるものの黒字となっている。
黒字を維持するため税率の改正等も検討しながら健全な財政運営に努める。

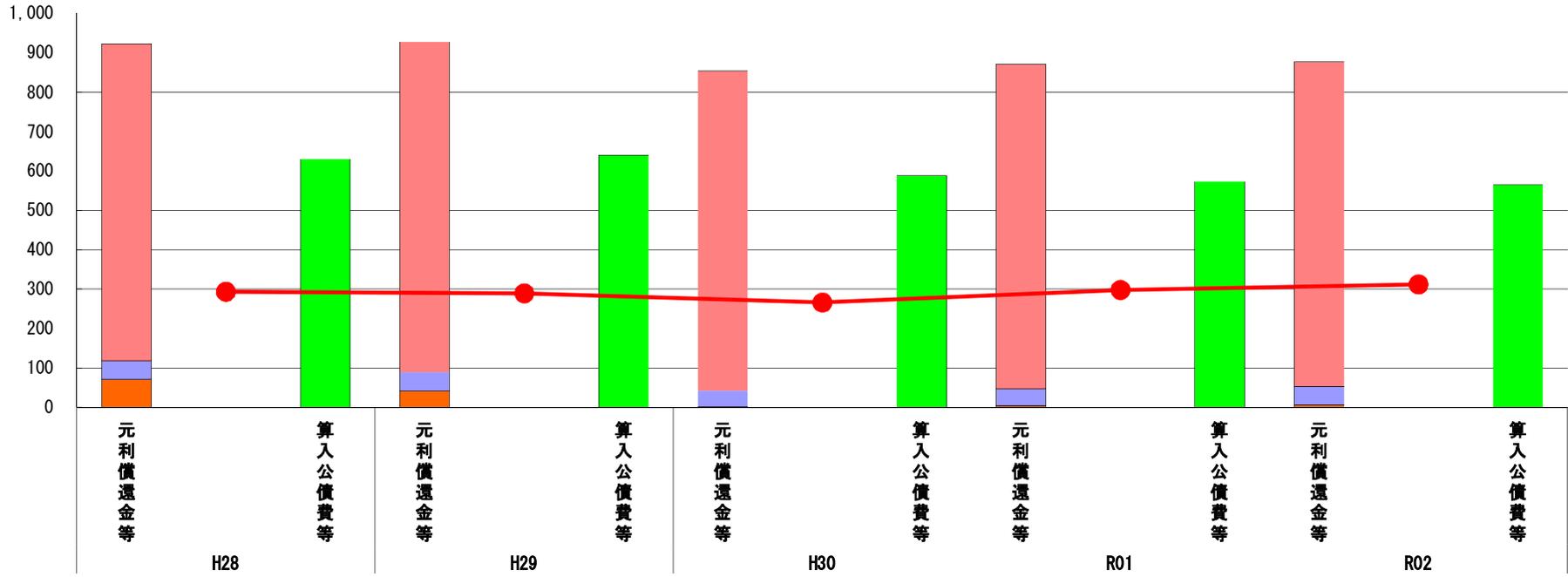
※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

鹿児島県湧水町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
元利償還金等 (A)	元利償還金		805	839	812	825	824
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		47	48	41	42	47
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		71	41	1	4	6
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		630	639	588	573	565
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		293	289	266	298	312

分析欄

令和2年度の実質公債費比率については、一般会計における公債費は減少したものの、算入公債費等が減少したため数値が上昇した。
引き続き、普通交付税の算入を受ける有利な地方債を活用するなど、健全な財政運営に努める必要がある。
公営企業債の元利償還金に対する繰入金は前年度よりも増加しており、今後も高い水準で推移する見込みである。
また、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等については、前年度よりも増加したため、公債費の上昇を招かないように調整・連携を図る。

※1 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
(参考) (百万円)

※2 減債基金積立状況等		年度	H27末	H28末	H29末	H30末	R01末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

本町において、満期一括償還地方債の借入れはない。

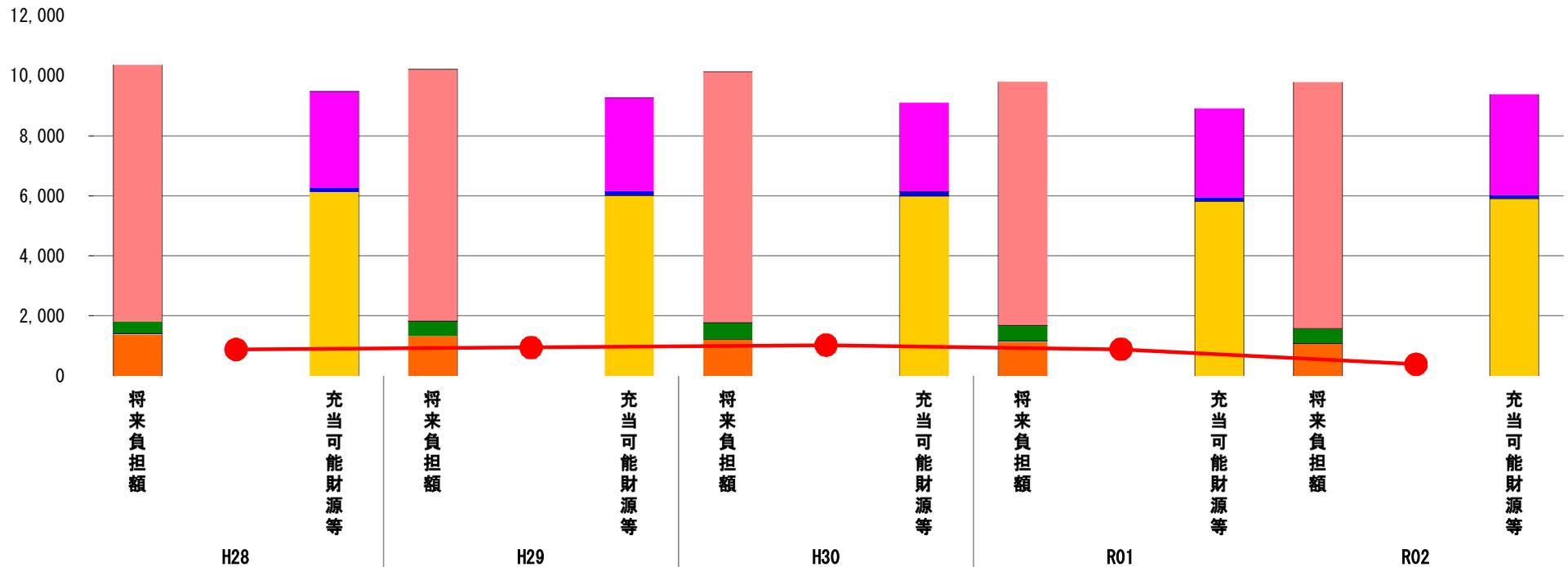
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

鹿児島県湧水町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		8,549	8,389	8,365	8,120	8,211
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		413	514	557	527	497
	組合等負担等見込額		28	-	10	26	20
	退職手当負担見込額		1,385	1,326	1,212	1,138	1,063
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		3,212	3,114	2,969	2,965	3,372
	充当可能特定歳入		140	145	143	124	109
	基準財政需要額算入見込額		6,136	6,021	6,003	5,832	5,918
(A) - (B)	将来負担比率の分子		887	949	1,028	891	392

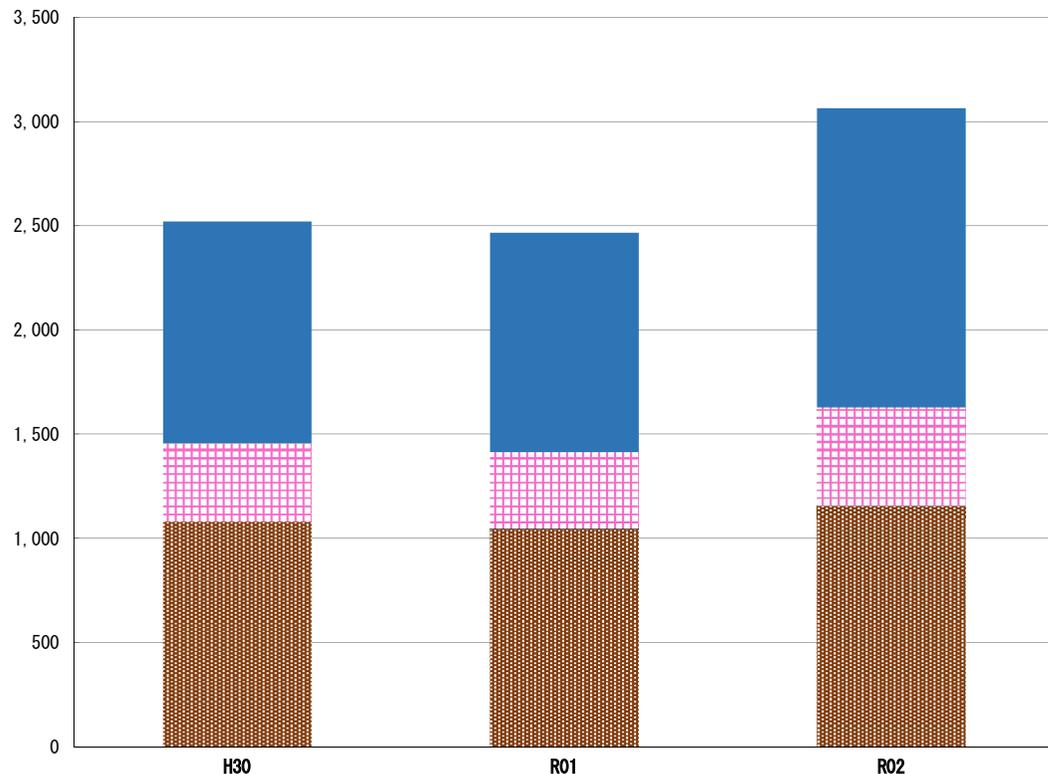
分析欄

令和2年度の将来負担比率については、退職手当負担見込額の減少と充当可能基金の増加により大きく低下した。
 一般会計等における地方債現在高が増加しているが、一時的なものであり、今後は借入額を同年度の元金償還額以内に抑制することを原則として、残高の減少に努める。
 公営企業債等繰入見込額については、水道事業会計において簡易水道の建設事業を実施しているところであり、今後、繰入金が増額が見込まれる。
 基金については、可能な限り取り崩しを抑え、繰越金等を積み立てることにより、基金の減少を最大限に抑制し、将来負担比率の上昇を招かないよう健全な財政運営を図る必要がある。

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	H30	R01	R02
財政調整基金		1,079	1,044	1,154
減債基金		376	370	474
その他特定目的基金		1,066	1,052	1,435
公共施設等整備基金		0	0	421
橋梁改築整備基金		275	281	286
地域福祉活動基金		286	286	266
地域づくり基金		245	225	196
学校教育施設等整備基金		37	39	43
基金残高合計		2,521	2,466	3,063

令和2年度

鹿児島県湧水町

基金全体

(増減理由)

ふるさと納税の増額などにより財源が確保でき、基金の取り崩しを最小限に抑制することができたことに加え、土地開発基金を廃止し、その残余金を財源として新たに公共施設等整備基金を新設したことから、基金全体としては597百万円の増加となった。

(今後の方針)

普通交付税の合併算定替による特例措置の適用期限が終了したことにより、現在、交付税額の段階的縮減がなされており、各種事業に基金を充当している状況であり、中長期的には減少傾向にある。

災害など臨時的な財政需要に対応する必要もあることから、財政調整基金の確保はもとより充実化を図る必要がある。

財政調整基金

(増減理由)

- ・決算剰余金及び土地貸付収入を155百万円積み立てたことによる増加。
- ・公共施設等の改修費用が増加し、財源不足により50百万円を取り崩したことによる減少。

(今後の方針)

今後も災害などの臨時的な財政需要に対応する必要があることから、現残高を維持できるよう、財源確保と歳出抑制に取り組んでいく。

減債基金

(増減理由)

- ・決算剰余金を134百万円積み立てたことによる増加。
- ・地方債償還のため30百万円を取り崩したことによる減少。

(今後の方針)

公共施設等の老朽化に伴い、地方債の活用が見込まれることから、現残高を維持できるように努める。

その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・公共施設等整備基金：公共施設等の整備に必要な財源を確保する。
- ・橋梁改築整備基金：「川内川水系河川整備計画」に基づき、改築又は整備される町内の橋梁架替事業に関し、必要な財源を確保する。
- ・地域福祉活動基金：高齢者の保健、福祉の増進に関する地域福祉活動を促進するための財政需要に対応する。
- ・地域づくり基金：自主的、主体的な地域づくり事業及び農山村活性化事業の財政需要に対応する。
- ・学校教育施設等整備基金：学校教育施設等の整備に必要な財源を確保する。

(増減理由)

- ・地域づくり基金：地域政策事業に30,000千円充当したことによる減少。
- ・地域福祉活動基金：高齢者福祉事業等に20,000千円充当したこと等による減少。
- ・森林環境譲与税基金：林業振興事業に7,175千円充当したことによる減少。
- ・森林環境譲与税基金：森林環境譲与税を18,061千円積み立てたことによる増加。
- ・橋梁改築整備基金：5,000千円積み立てたことによる増加。
- ・公共施設等整備基金：新たに421,269千円積み立てたことによる増加。

(今後の方針)

普通交付税の合併算定替による特例措置の適用期限が終了することに伴い、現在、交付税額の縮減がなされており、事業実施にかかる財源確保が厳しい状況である。

そのため、事業の目的や内容を精査し、特定目的基金の充当などを行う必要がある。

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

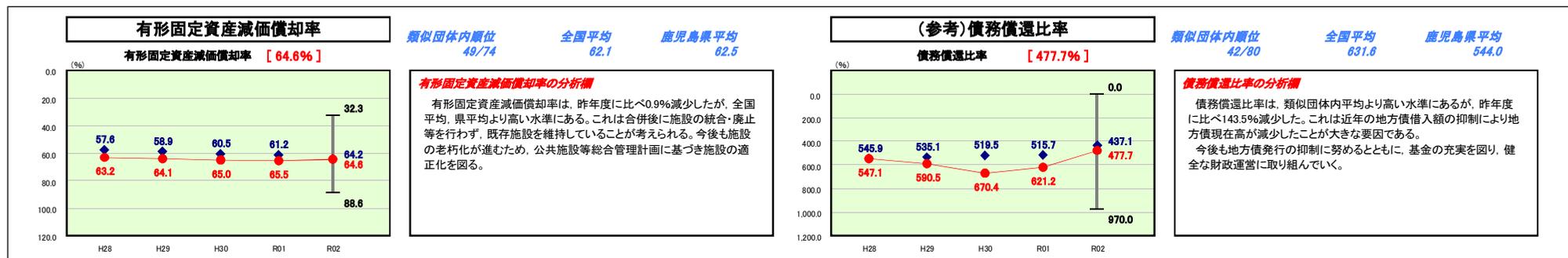
令和2年度

鹿児島県湧水町

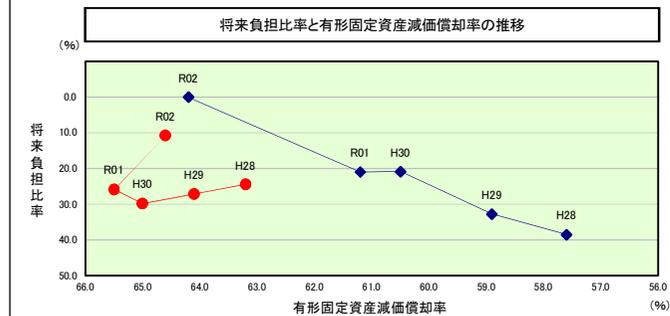
人口	9,005	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,916	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	144.29	km ²	実質公債費比率	8.3	%
歳入総額	9,684,916	千円	将来負担比率	10.8	%
歳出総額	9,308,572	千円	市町村類型	H28 III-1 H29 III-1 H30 III-1	
実質収支	361,586	千円	(年度毎)	R01 III-1 R02 II-1	
標準財政規模	4,153,086	千円			
地方債現在高	8,210,920	千円			



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出してない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



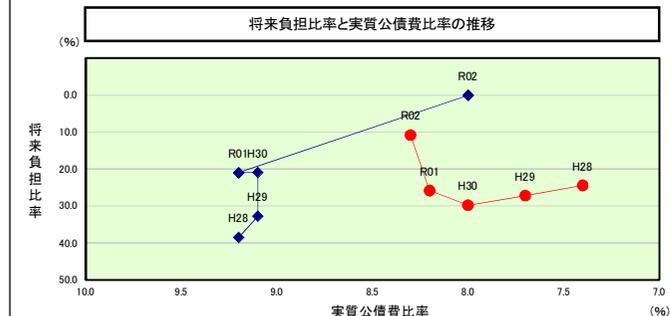
分析欄

両指数とも類似団体内平均値を上回っているが、このうち将来負担比率については、地方債の新規発行を抑制したことにより、比率が低下している。一方で、有形固定資産減価償却率は既存施設の老朽化により高い値で推移している。今後は施設の改修に伴う地方債の発行が見込まれるが、将来負担比率の急激な上昇を招かないよう、公共事業の平準化を図るとともに、公共施設等総合管理計画に基づき施設の適正化に取り組んでいく。

(参考)

		H28	H29	H30	R01	R02
当該団体値	将来負担比率	24.5	27.2	29.8	25.9	10.8
	有形固定資産減価償却率	63.2	64.1	65.0	65.5	64.6
類似団体内平均値	将来負担比率	38.5	32.8	20.9	21.0	0.0
	有形固定資産減価償却率	57.6	58.9	60.5	61.2	64.2

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

実質公債費比率は、類似団体内平均値より高い水準にあり、近年上昇傾向にある。これは交付税措置のある有利な地方債を借り入れていたものの、交付税算定期間より短い償還期間で借り入れているものが多くなっているからであり、この傾向は続くものと考えられる。今後は実質公債費比率の急激な上昇を招かないよう、単年度の借入額を抑制する必要がある。

(参考)

		H28	H29	H30	R01	R02
当該団体値	将来負担比率	24.5	27.2	29.8	25.9	10.8
	実質公債費比率	7.4	7.7	8.0	8.2	8.3
類似団体内平均値	将来負担比率	38.5	32.8	20.9	21.0	0.0
	実質公債費比率	9.2	9.1	9.1	9.2	8.0

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

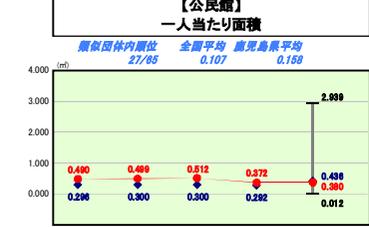
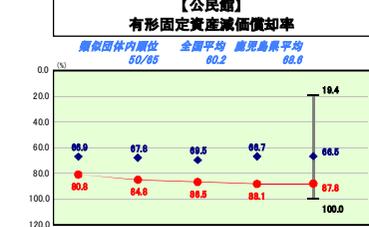
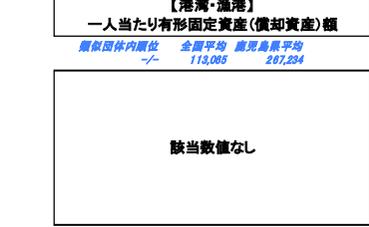
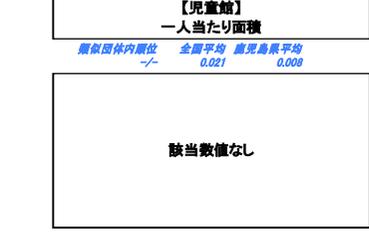
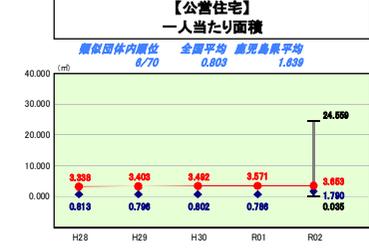
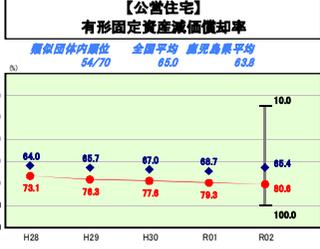
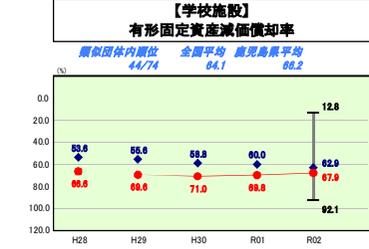
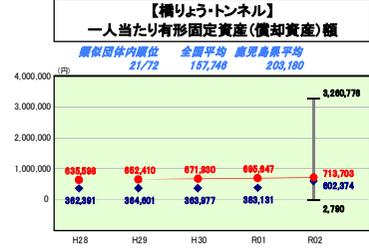
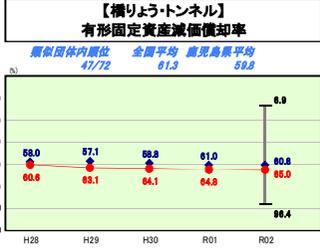
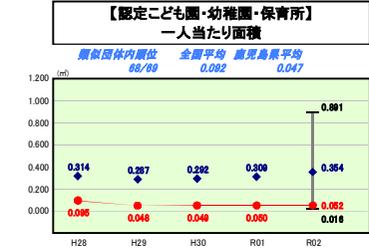
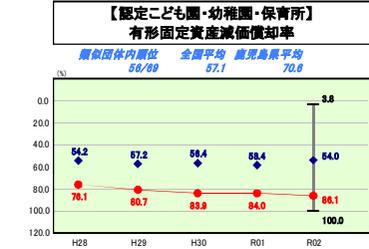
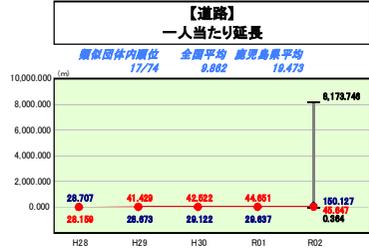
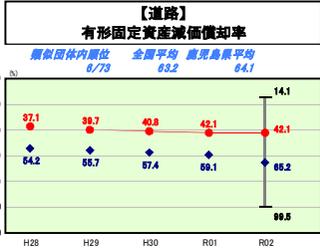
令和2年度

鹿児島県湧水町

人口	9,005	人(93.11歳)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,916	人(93.11歳)	通称実赤字比率	-	%
面積	144.29	km ²	実質公費比率	8.3	%
収入総額	9,684,916	千円	将来負担比率	10.8	%
支出総額	9,308,572	千円	市町村類型	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1	
実質収支	381,586	千円	(年度毎)	R01 Ⅲ-1 R02 Ⅲ-1	
標準財政規模	4,153,086	千円			
地方債残高	6,210,920	千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



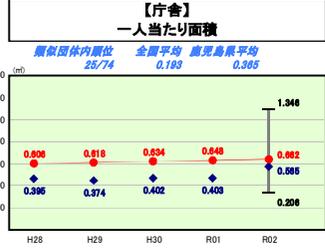
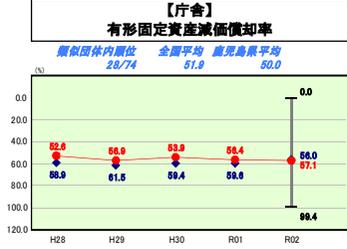
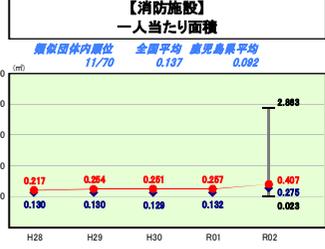
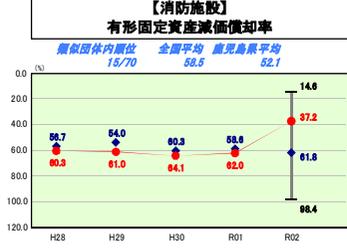
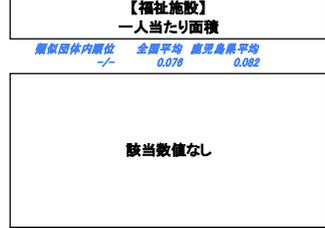
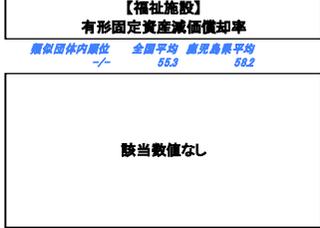
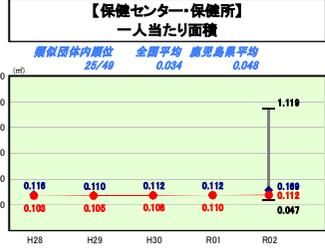
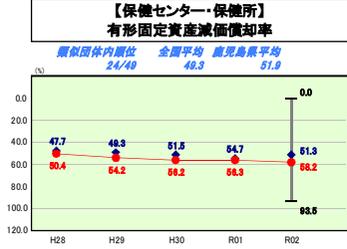
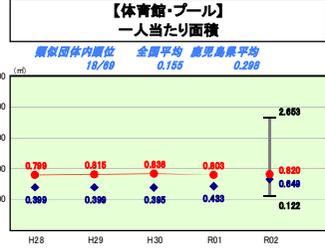
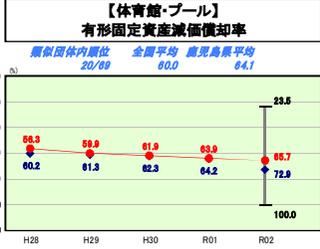
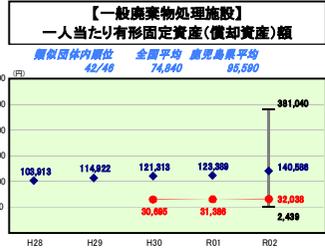
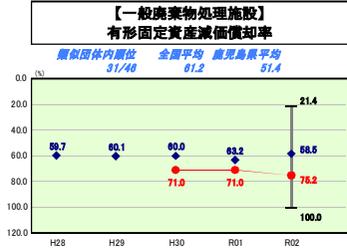
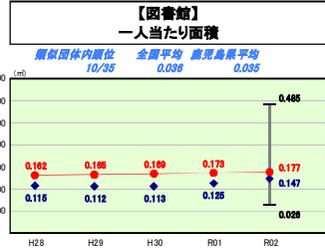
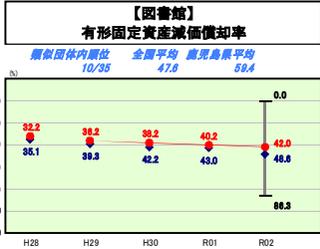
施設情報の分析
道路以外の類型において、有形固定資産減価償却率は類似団体内平均値を上回っている。このうち公営住宅については、人口一人当たり面積が類似団体内順位上位となっており、入居率も減少していることから、施設の適正化について検討を行う必要がある。幼稚園、公民館については、昭和50年代に建築されており、老朽化に伴う多額の改修費用が見込まれるため、施設のあり方について検討を行う必要がある。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

人口	9,005 人(03.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,916 人(03.1.1現在)	通称実赤字比率	- %
面積	144.29 km ²	実質公費比率	8.3 %
入居総額	9,684,916 千円	将来負担比率	10.8 %
歳出総額	9,308,572 千円	市町村類型	H29 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1 H30 Ⅲ-1
歳入総額	381,586 千円	(年度毎)	R01 Ⅲ-1 R02 Ⅲ-1
標準財政規模	4,153,086 千円		
地方債残高	6,210,920 千円		

- 当該団体値
- ◆ 類似団体内平均値
- ┆ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析
 ほとんどの類型において、有形固定資産減価償却率は類似団体平均値と同程度で推移しているが、大きく上回っているのは一般廃棄物処理施設で対象施設である衛生処理場の老朽化によるものである。今後老朽化は進むが、必要不可欠な施設であるため、必要な改修を行いつつ、施設の長寿命化を図る必要がある。一方、大きく下回っているのは消防施設で、これは防災行政無線の更新によるものである。これに伴い一人当たり面積も増加している。維持管理にかかる経費の増加に留意しつつ、引き続き、確実な情報伝達と住民の安全・安心に努める。